

## 第5回モノづくり部門会議録

日時：平成28年10月17日 18:00～19:30

場所：クリエイションコア南館3階研修室C

出席者

○中小企業振興会議モノづくり部門会議委員

出席委員：糸野委員、本多委員、高田委員、田中委員、  
古川委員、阿児委員

欠席委員：西松委員、宮野委員、吉田委員、高島委員

○アドバイザー

公益財団法人東大阪市産業創造勤労者支援機構 瀬尾コーディネータ

○事務局

鶴山モノづくり支援室長、堀川モノづくり支援室次長、賀川労働雇用政策室長、  
久保労働雇用政策室次長、野下モノづくり支援室主査、津田モノづくり支援室係員

開会

### 1 はじめに

### 2 中小企業支援施策について

#### (1) 事業承継支援の在り方

#### (2) フリーディスカッション

・東大阪市内中小製造業の事業承継に関する調査のまとめについては資料1、(2) 事業承継支援のあり方については資料2、今後のスケジュールについては資料3に沿って事務局より説明。

**委員** 資料1について経営者の選択肢として1. 2. 3とあるが、1～3全てに対して、資料2の「モノづくり機能の維持に向けて」という柱を合わせてモノづくり機能を維持していかなければならない。資料2にはそれについて具体的に書かれていない。これでは柱になっていない。資料2の切り口は会社をどう維持していくかということが書かれており、モノづくり機能の維持というものが書かれていない気がする。前回の部会でも主張したが、現状、モノづくり企業のネットワークがなくなってきている。ここ1年の話だが、旋盤をしている企業ですごい技術力をもっている。営業をせず、専門商社1社から仕事ももらっている状況なので、売上はあまりよくなかった。廃業も考えていたが、こちらから仕事をお願いするようになり、人材も1人雇い順調に業績を伸ばしている。企業自身は自社の技術力がすごいとは感じていない。周りから言われて初めて実感するといったことが多い。技術の継承といったことを念頭においた事業承継をおこなっていただきたい。

**部会長** 今のお話だと、企業を継続したとしても、技術が継承できないのではないかと。必要とされる機能の維持といったことができないのではないかと。支援施策も機能の維持を念頭においた施策も必要じゃないかということですが、事務局いかがですか。

→（事務局）

市内企業のネットワークを維持することに重点を置いていくべきと考えている。そういった観点から考えると、資料2の項目3の上から2番目の廃業した企業に対してのヒアリングを行うことができれば、従業員、取引先等をどう引き継いでいったかの事例を収集できる。事例の収集が可能ならば、オープンにできるものを公開し、波及させていければと考えている。また、そこに技術面でのスポットを当てられるようなものを公開し、対外的にアピールをしていければと考えている。資料2の4番目に、技術力のアピールとして、企業のスゴ技自慢の発掘をし、それをうまくつなぐ仕組みを構築できればと考えている。

**部会長** 今のお話を聞くと、ワンストップ窓口や、技術交流プラザがうまく機能していると、既に解決できている自案ではないかと思う。実際に廃業を考えている人に対して、どういった技術を持っているか、どういった取引を行っているか等目利きができる人が市や商工会議所のコーディネーターとして相談業務を行うことができればそれが一番良い。ワンストップ窓口で解決できれば、資料1のような選択肢にいくまえの段階で解決することができる。

先ほどの旋盤企業のように、ワンストップで取引先を紹介し、営業の課題点を取り除くことで、流れが良くなるということがあるのではないかと。

**委員** そういった企業の探索をどこまでできるか、深堀できるかといった問題がある。今のワンストップコーディネーターはうまくまわれているとは思えない。

**部会長** コーディネーター業務は事業承継とは別の業務の話になるということか。

→（事務局）技術に特化するような展開と思うが、企業の技術自慢ということであれば、技術交流プラザの企業紹介の欄に技術力を掲載し、どの企業にはどういった技術力があるか等、対外的にアピールできるようにできればと考えている。企業の技術力のデータベース的なものは把握できていないのが現状。事業承継と絡めて企業情報を入手できればと考えている。

**部会長** やはりワンストップへの相談に対して、これは事業承継の問題、技術の問題等の割り振りをするのでうまくまわるのではないかと。また、そのようなまわる仕組みを作ることで解決するのではないかと。

**委員** さきほどの話もあるが、技術を分かっているとすごいということが分からない。実際にヒアリングに行くということだが、そのヒアリングの際に技術が分からない人が行っても意味がない。

→（事務局）外からではなく、自らが凄みを発信できるような仕組みを作ればと考えている。

**委員** 自社の技術がすごいかどうかは自分では分かりにくいのでは。同業種の人が見て初めてそのすごさがわかるのではないかと。

→（事務局）確かに自社のすごさを把握している企業は少ないと感じている。そこを磨いていく、発掘していくのも課題だと感じている。

**委員** 事務局の意見でネットワーク、繋がるという言葉が出てくる。前回、今回とコーディネーターの方に出席していただいている。前回のコーディネーターの話で、訪問について聞いたが、訪問するには電話をかけ、電話に出てください、なおかつOKをもらった企業にしか訪問できない。もっと市がコーディネーター業務をバックアップすべきではないか。一義的な相談窓口ではダメ。せっかくワンストップという相談窓口があるのだから、ワンストップという仕掛けを市がフォローできるようなものを作るべき。先ほどから話にあるように自社の凄みを分かっていない企業が多い。小規模事業者ではなかなかない。技術交流プラザの話になるが、実際にうちの会社は技術交流プラザ経由で発注を受けたことがある。年間7件ほどある。一方で、これまで取引をしていたメッキ屋がつぶれてしまった。代替りの会社を調べてもらおうと、ワンストップに相談したが、答えは技術交流プラザに載っている企業で、しかも取引をしていた企業が一番上にきていた。技術交流プラザは掲載企業が1000社程であるが、我々がほしいのはもっと深い企業。それは口コミや足でしか探せない。技術交流プラザに載っているデータベースと市内製造業が欲しいデータベースでは少しずれが生じている。

**委員** コーディネーターの訪問について、電話をしてから行くというのでは意味がない。私もたまに訪問するが、企業の前を通り、気になったら飛び込みで行く。もちろん断られることが多いが、中には引き受けてもらえるところもある。月間や年間でノルマを設定するべきでは。訪問する数が増えるに比例して、目が肥えてくる。訪問するにしたがって中には、継いでも良いという人も出てくるかもしれない。私も会社を経営しており、承継の問題もあるがお客様がいる。お客様がいる以上、続けなければならない。

**部長** 以上の議論をまとめると、技術的な側面が少し抜けているのではないかとということだが、今後その点を含めてブラッシュアップしていくことは可能か。

→（事務局）この2年間技術継承について議論し、技術的な側面については、初めのころに少し議論したかと思う。今回はこの技術継承の集大成ということもあり、何らかの形で技術継承についていれていきたいと思う。どういった形で行っていくかは考える必要がある。

**委員** なぜ事業承継をするのか。モノづくり企業なので技術の継承、ノウハウの承継があつてこそ企業がなりたつもの。それを側面的に載せるというよりメインにとらえるべきでは。できれば、事業承継といった具合でやってもらいたい。

**委員** 狭い意味だけの事業承継を議論している気がしている。経営者本人が事業承継するかしないかを含めて検討している人に対しての支援施策。そのためセミナーを開催するやマッチングを行うといった施策になっている。たしかに重要だが、それを超える問題がある。経営者本人が問題と

とらえていない場合である。経営者本人は廃業していいと決めているが、周囲からみると、問題がある。そういった事例は資料1のフローチャートには入っていない。今日の議論の中ではそういったものがあるのではないか。

私はもう1つ問題があると考えている。事業を継ぐような若手のモチベーションをどうするか。それも別の政策課題としてあるのではないか。1つの方法としては、学生の工場見学を行い、継いでみたいな、と思わせるような、モチベーションを上げるような取組が必要ではないか。東大阪市でモノづくりを継続していく中では1つの柱になるのではないか。

・コーディネーターから支援機構で行っているコーディネーター業務の説明

**部会長** 普段、企業を訪問されている中で、食品工場等にも行かれているようですが、その他のところにも行った際に技術的な相談をされると思う。そういった場合の対応は。

→ (コーディネーター) 技術的なことは分からないため、技術系のコーディネーターにつなぐようにしている。

**部会長** どういった方法でつなげているのか、他に方法があれば教えていただければ。

→ (コーディネーター) 先ほどとは別の件ですが、食品製造業の方が外国人従業員とトラブルになったことがあり、その相談を市経済部へつないだ。

**委員** 先ほどの説明で、鞆の製造が海外から国内へ回帰していることだったが、それはなぜか。

→ (コーディネーター) 最近インバウンドが増えてきており、日本製の鞆を購入する人が増えた。また、日本人でも高くてもいいものを買うという需要が増えてきており、受注の増加につながっている。

**委員** 4月からいろいろ訪問されており、断られる件数が多いということですが、どういった理由で断られるのか。

→ (コーディネーター) いろいろ理由があるが、一番多いのは、時間がないという理由が多い。

**委員** やはり東大阪市の後押しが必要では。そうすることにより、断られる件数も少しは変わってくるのではと思う。

**委員** コーディネーターがリストに沿って周っているとのことだが、リストとはどういうものか。

→ (事務局) 住工共生の関係で市内の立地状況調査をもとにリストを作成。

**委員** 前回の議事録を見ていて1つひっかかることがあった。特定の企業がすごい技術を持っていることが分かったとしても、それを個別の企業情報として公開できない。

どこまでが企業情報なのか。すごい技術があったのなら、企業名を伏せた形で技術交流プラザに載せる等できないのか。

→（事務局）ここでいう特定の情報は、コーディネーターが訪問した内容を企業情報として記録し、その閲覧を職員に限るという形にしてある。技術交流プラザに企業名を伏せて載せるということは可能だが、問い合わせがあった際に、企業に公開してよいか、あらかじめ許可を取っておく必要がある。

**委員** 企業側が拒否することはあまりないのではないかと。すごいと言われ、拒否することは普通ありえないと思う。もっと、コーディネーターが企業訪問した記録を公開していくべき。

**委員** 技術交流プラザをあまり見ることがない。見なくても市内の企業であればある程度知っている。技術交流プラザのトピックスにでもこういう技術の企業があります等掲載してもらえれば、情報収集として使える。コーディネーターがせっかく周っており、情報が入ってきているのに載せていただけるようにしてもらえれば。

→（事務局）来年3月の技術交流プラザの更新を予定している。そこで対応できるか検討する。

**部会長** 以上の議論をまとめると、情報発信についてだと思う。せっかくいい技術を持っていても発信する場所がない。ぜひ、技術交流プラザに技術を掲載していただき、情報発信をしていくことで、技術の継承に繋がっていくのではないかと思います。

### 3 その他

- ・第6回モノづくり部門会議については2月中に開催を予定。

＝閉会＝

第5回モノづくり部門会議終了